

G 8 認知症サミットの結果（概要）

大臣官房国際課

平成 25 年 12 月 25 日

1. サミットの概要

12 月 11 日、ロンドン（英国）で「G 8 認知症サミット」が開催された。日本からは土屋品子厚生労働副大臣が出席し、英国のデイビット・キャメロン首相、ジェレミー・ハント保健大臣等 G 8 各国の政府代表のほか、欧州委員会、WHO、OECD の代表が出席した。また、各国の認知症専門家や製薬会社代表等も参集し、世界的な共通課題である認知症について、各国の施策や認知症研究、社会的な取組み等幅広い観点からその現状や取組みを紹介するとともに、熱心な意見交換が行われた。土屋厚生労働副大臣は、日本の高齢化と認知症の現状、認知症施策推進 5 カ年計画（オレンジプラン）等について説明を行った。会議の成果として、G 8 各国代表者の間で、認知症問題に共に取り組むための努力事項を定めた「宣言（Declaration）」及び「共同声明（Communique）」に合意した。

2. G 8 認知症サミット宣言の主な内容

- ・ 2025 年までに認知症の治療または病態修飾療法を同定し、その目的を達成するために、認知症に関する研究資金を共同で大幅に増やすという目標を掲げる。
- ・ 認知症関連の調査研究に従事する人々の数を増やす。
- ・ 国際的な専門知識を結集することでイノベーションを促進し、また、認知症イノベーションを世界規模で支える民間・慈善基金を立ち上げる可能性の模索を含む、新たな資金源を獲得するための国際的な取組みを調整するグローバルな「認知症イノベーション特使（Dementia Innovation Envoy）」を任命すると英国の決断を歓迎する。
- ・ 我々が資金提供する研究に関する情報を共有し、ビッグデータ構想の共有を含む連携と協力が可能な戦略的優先領域を同定する。
- ・ 認知症研究に対するオープンアクセスを奨励し、研究データと研究結果を更なる研究のためにできるだけ速やかに利用できるようにする。

3. 今後の予定

「新しい介護と予防モデル」をテーマとした本サミットの後継イベントを 2014 年に日本において開催する予定。